

---

# シヘノトビラ

GReeeeN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シヘノトビラ

### 【著者名】

NZコード

N6100E

### 【あらすじ】

私がみた恐怖の夢は正夢となつて、私の周りの人を不幸に追いつめられる。

私はある時怖い夢を見た。

「「死への扉」」

どんな夢かと言つと、

ある時私の後ろに気配を感じ、後ろを向いたら知らない女人が立つていた。

白いワンピースを着て、髪の長い女人。

そしたら、その女人の後ろにはどす黒いサビた扉があつた。扉を私は見ていて、目をそらしたら女人がスーッと消えるように扉へ歩いていった。

こんな夢を私は見た。あまりの恐怖に目覚めてしまった。汗はビックショリで、体が震えていた。

こんな夢を毎回見てる。  
自然に私は慣れてきた。その時、いつも見ている夢とはちがかつた。

そして私は恐怖がよみがえり、深夜に目がハツと覚めた。体を起した瞬間、目の前に夢で見た女人が私を見つめたつている。

私は恐怖のあまり、声も何も出ない。

ありえないが夢と同じで女人の後ろには扉がある。

夢と全く同じ。そして女人人は扉に向かつて歩こうとした時、「

ハヤクコイ！シヘノトビラにコイ！」

こんな声が聞こえたような気がした。

それから、その夢は見なくなつた。

けれど、私の周りでは不幸が続いている。

友達が行方不明になつたり、

事故にあつたり……

週に3回はある。毎回のよつこ……

ある時に変な声が聞こえた。

「〔ナンデコナイ！オボエテロ〕」

この言葉が最後だった。

私の周りでは不幸がなくなつた。でも安心してたら、一本の電話が鳴つた。

出てみると、その内容は家族が亡くなつたという連絡だった。  
その時、私はふとある言葉を思いついた。

「〔ナンデコナイ！オボエテロ〕」

オボエテロ……この事か！！

これ以来一切、変な事は来なかつた。

でも……何かが私の頭の中で笑い声が聞こえる……  
女の人の声が……

(後書き)

どうでしたか？初のホラー作品なんで、読みにくい所もあったと思います。  
ので、感想待ってあります。  
ダメ出しでもよろしい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6100e/>

---

シヘノトビラ

2010年12月10日19時29分発行